

ブック

本書は、同時通訳者である筆者が、未来を生きる子どもへの英語教育について、言語学や英語教育史、英語教育、異文化コミュニケーション学等の専門分野の知見を基にして、子ども達を「英語嫌いにしない」という視点から書かれている。

筆者は「言語」は「思考」に大きな影響を与えており、学習言語力は自覚的に学習することが欠かせないことを提唱している。そして、現在の会話中心の英語教育に警鐘を鳴らして、英語力のかなめは「読む」「書く」であると以下のよう主張している。

①日本語と言語体系が全く異なる英語を習得するためには、読み書きが不可欠である。②英語で仕事をするためには日常生活だけでなく不十分であり、仕事に関わる内容を理解し分析し発信する認知的枠組みとそれに見

鳥飼玖美子 著

NHK出版新書562 886円

☎03-3464-7311

子どもの英語にどう向き合うか



合う言語コミュニケーション能力が必要であり「読む力」が不可欠である。③外国語学習には、構造や文法規則の知識がなければ「使える」ようにはならない。「読む・書く」力は英語力の根幹をなすものであり、おろそかにされ続けければ国民全体が「英語を使える」どころか、翻訳や通訳などの英語の専門家を育成することもできなくなる。

また、次期学習指導要領について目標等の解説、及び、文部科学省が作成した教材『Can't Let's Try』やこれらの指導書等の内容を具体的に紹介し、《文部科学省の英語教育政策も「会話力」を目指しているので、「学習言語力」がつかず、成果が上がらないことを危惧している。》と断言している。

《本書は保護者の方々に現状や問題点を知らせながら、自分の思いを語った。》と筆者が述べているように、教育者や保護者にお勧めしたい一冊である。(愛知教育大学教授・高橋美由紀)